

仙台貨物ターミナル駅移転計画に係る
環境影響評価準備書に対する市民意見及び事業者の見解

平成 29 年 6 月 6 日時点

日本貨物鉄道株式会社

準備書に係る意見の概要と事業者の見解

| No. | 意見の概要 | 事業者の見解 | 備考 |
|-----|---|--|---|
| 1 | <p>このような住民の意見を問う機会を設けてくれたことに感謝する。</p> <p>地域に与えるダメージだけでなく、地域に対して何かいいことなのか、住む人々の為に第一に考えて、事業を進めてほしい。具体的な要望については内容が分からないため記せないが、少しでも住み良い地域となるように頑張してほしい。</p> | <p>今後とも住民の方々のご要望やご意見を伺いながら、環境に配慮した事業となるように引き続き努めていく。</p> | |
| 2 | <p>計画地周辺は、国道4号や主要地方道仙台松島線がある交通の要衝で、東日本大震災以降、大型車両の通行が増えており、県道今市福田線の余目跨線橋や市道余目高江線は、今でも渋滞が発生している。さらに新貨物ターミナル駅に出入りする輸送トラックが走行することになると、渋滞を加速させることは確実である。</p> <p>市道余目高江線の一部を廃止し、踏切2箇所を廃止する計画については、周辺道路の幅員と迂回により対処すると提案されているが、これでは渋滞解消にはならない。</p> <p>大井川踏切は廃止ではなく、高架式または地下道式にするよう要望する。市道をJR貨物が私有化することは許されない。</p> | <p>本事業に係る輸送トラックによる周辺交通への影響や歩行者の安全性に配慮し、市道余目高江線の一部を廃止して本施設の出入口を一本化する計画としている。</p> <p>一方、これにより、主要地方道仙台松島線及び一般県道今市福田線の交通量が增大すると想定されるが、現在、この交通量に対応するため、今市東交差点部等の改良について、関係機関と協議を行っているところである。</p> <p>なお、高架式や地下道式等の道路改良については実施の予定はないが、本事業に伴う交通量の増大に対しては、上記対策により、適切に対処するよう努める。</p> | |
| 3 | <p>現状の貨物ターミナル駅においてどのような騒音が発生しているのか、また、これが移転による機能強化(E&S方式など)によってどのように変化するかなど、科学的なデータとともに具体的な騒音防止対策を住民に示すべきである。</p> | <p>現駅においては、機関車の走行やフォークリフトの稼働等に伴う騒音が発生している。新駅においては、これらに係る騒音レベルを測定した結果を活用するとともに、E&S方式による機関車の動きを考慮したシミュレーションモデルにより、騒音予測を実施し、準備書に示している。</p> <p>また、騒音の影響を低減するための環境保全措置については、準備書に示すとおり、機関車の運転に際しては、スムーズな発進を心掛けるとともに、フォークリフト等については、慎重な運転や稼働時間の短縮等の対策を講じる計画である。</p> | <p>準備書 8.2 騒音 (P8.2-29～38, P8.2-66～67)</p> <p>11.1 事後調査内容 (P11-9)</p> |
| 4 | <p>計画では、市道余目高江線を輸送トラックの通路として、一日あたりトラック約500台が通過するとしている。JR貨物が持つ最長貨車は26両編成でトラック約550台分と言われているが、本当に500台なのか。</p> <p>E&S方式により短時間での積卸しが可能となり、今以上に取扱量が増えることは明らかである。市道余目高江線をはじめとした周辺道路への大型トラックの通行も増え、振動問題が住環境を悪化させる可能性がある。新幹線による振動に悩まされているこの地域に新たな振動問題が降りかかることになるため、沿線住民にとって極めて深刻な問題であることは明らかである。貨物ターミナルの影響による振動のシミュレーションを行い、その対策を明示することを求める。</p> | <p>市道余目高江線には、すべての施設関連トラックが走行する計画としており、その一日あたりの台数については、現駅における実績に基づき、約500台と予測している。なお、JR貨物の全国における貨物列車の最大編成は26両編成であるが、JR東北本線の宇都宮貨物ターミナル駅以北では最大20両編成であり、これは10tトラック50台分に相当する。</p> <p>E&S方式の導入により、効率的な荷役作業が可能となるが、取扱量については現駅と同等程度を見込んでいく。</p> <p>輸送トラックをはじめとした施設関連車両の走行に係る振動については予測(シミュレーション)を実施しており、いずれの地点においても振動規制法に基づく道路交通振動の要請限度を下回る結果となっている。また、施設関連車両の運転者に対して、不要なアイドリングや空ふかし、急加速等の高負荷運転をしないように促す等の対策を講じる計画である。</p> | <p>準備書 1.4.6 貨物駅の運行計画 (P1-16)</p> <p>1.4.7 交通計画 (P1-18)</p> <p>8.3 振動 (P8.3-29～30, P8.3-34)</p> |

| No. | 意見の概要 | 事業者の見解 | 備考 |
|-----|---|---|---|
| 5 | <p>仙台総合鉄道部がある燕沢の周辺住民は、深夜・早朝を問わず騒音に悩まされ続けてきた。この騒音について周辺住民は繰り返しJR貨物と交渉をしてきたが、一部改善されたとは言え、実態はほとんど変わっていない。</p> <p>これまで仙台総合鉄道部でおこなってきた機関車の運転士の交代を岩切の新駅で行うため、騒音問題は低減されると説明されているが、これは騒音のごく一部が移動されるだけで騒音の本質が変わるわけではない。燕沢地区における仙台総合鉄道部の騒音の現状と、具体的にどのように変化するかを科学的なデータで開示することを求める。</p> <p>また、北田踏切をはじめ周辺の踏切の「開かずの踏切化」があるのか具体的なダイヤに基づいて説明することを求める。</p> | <p>本事業は貨物ターミナル駅を移転するものであり、ご指摘の仙台総合鉄道部については環境影響評価の対象にはなっていない。</p> <p>なお、準備書に示すとおり、方法書に対する市長意見を踏まえ、計画地南西端に近接する住宅地(燕沢地域)を対象として、燕沢東一丁目きただ公園で現況の騒音レベルを測定するとともに、駅移転後の騒音影響について予測した結果、環境基準を満足していることを確認している。また、踏切の遮断時間については、今後具体的なダイヤに基づき検討した上で、可能な限り影響が少なくなるよう努める。</p> | <p>準備書 3.2.2 市長意見に対する事業者の見解 (P3-16)</p> <p>8.2 騒音 (P8.2-3～6、P8.2-66～67)</p> |
| 6 | <p>計画地付近には、七北田川から取水した用水路があり、その用水路への影響を心配する声がある。また、田畑を1.5メートルの高さに盛土することで、雨水・内水被害の拡大が懸念されている。</p> <p>近くには岩切小・中学校、東光第二幼稚園、ひかり保育所があるが、通学路への安全対策はどのように講じられるのか。排気ガス・粉じんによる生活環境悪化が危惧される。</p> <p>こうした大規模な貨物ターミナル駅の出現は、岩切住民の住環境及び岩切のまちづくり全体に影響を与える。JR貨物は、宮城県、仙台市とともに住民の要望・意見をよく聞き、対策を講じることを要望する。</p> | <p>本事業により、用水路を利用する水田への水供給に影響が無いよう関係機関と協議を進めている。</p> <p>また、計画地からの雨水排水については、県の基準に則り設置する南北2箇所の防災調整池に集めた後に、適正な量を周辺の排水路へ排水する計画としており、用水路への影響はもとより、洪水に対する安全が確保されるものと考えている。</p> <p>通学路への安全対策については、施設関連車両の走行経路を、歩道を有する国道や県道等に設定することを基本とし、歩行者の安全性に配慮する計画としている。</p> <p>近隣の学校等への排気ガス・粉じんの影響については、準備書に示すとおり、計画地直近のひかり保育園を対象に調査及び予測を実施しており、工事中及び供用後において、環境基準を下回る結果となっている。</p> <p>今後とも周辺環境の保全が図られるよう環境配慮に努め、住民の方々のご要望やご意見を伺いながら、必要となる対策について検討を行うよう努める。</p> | |
| 7 | <p>輸送トラックは、田子地区を通過することになる。この地区は、田畑を埋め立てた地域であるため、振動による地盤への被害がないかの調査を要望する。</p> <p>また、県道今市福田線と市道余目高江線とが合流する交差点の危険防止対策の提示を要望する。</p> | <p>ご指摘の田子地区においては、準備書に示すとおり、市道余目高江線沿いでの振動調査や、トラックを含めた自動車の走行に係る予測を実施している。その結果、道路交通振動の要請限度を下回ると予測されており、地盤に被害を及ぼすようなことはないものと考えている。</p> <p>交差点の危険防止対策については、現在、歩道へのガードパイプ設置や、車道への中央分離帯整備等の危険防止対策を行うことで、関係機関との協議を行っている。</p> | <p>準備書 8.3 振動 (P8.3-2～5、P8.3-29～30)</p> |
| 8 | <p>貨物ターミナル駅移転予定地近くの幼稚園に子供が通園しているため、交通渋滞や騒音、ほこりなどの環境の悪化が心配である。貨物ターミナル駅移転は地元住民にプラスとなることはないため、環境の悪化を防ぐ具体的な対策をして欲しい。</p> <p>また、貨物ターミナル駅建設が起因となって、健康被害が起こった場合、具体的にどのように責任をとるのか示して欲しい。</p> | <p>環境への影響を低減するための環境保全措置については、準備書で示すとおり、交通渋滞や安全性を考慮した施設関連車両の走行ルートへの配慮や音の発生等に配慮した機関車・フォークリフト・施設関連車両の運転等の対策を講じる計画である。これらの対策の実施により、今後とも周辺環境の保全が図られるよう努める。</p> <p>また、駅の供用後に、環境影響評価事後調査を実施する計画としていることから、予測と実際が乖離した場合等においては、必要な対策をとることとしている。</p> | <p>準備書 1.5 環境の保全・創造等に係る方針 (P1-31～32)</p> |

| No. | 意見の概要 | 事業者の見解 | 備考 |
|-----|--|--|---------------------------------|
| 9 | 家族が利府街道を利用して通勤しており、今でも渋滞が大変である。具体的な対策はあるか。 | 本事業に係る輸送トラックの走行や市道の一部廃止により、主要地方道仙台松島線(利府街道)や一般県道今市福田線の交通量が增大すると予測されるが、現在、この交通量に対応するため、今市東交差点部等の改良について、関係機関と協議を行っているところである。 | |
| 10 | 岩切は、明治以降、七北田川の洪水によってしばしば被害を被ってきており、鶴ヶ谷、南光台、利府、鶴が丘などの宅地開発も加わって危険度が増大している。 農地である計画地の洪水調整機能の役割は大きく、今市地区、三所北・南地区、鴻巣・余目地区などの浸水・冠水被害はあったものの、水没は防いできた。 計画地を1.5m程度盛土した場合、水が計画地より低くなる鴻巣・余目・田子方面に流れるのは必定である。 「計画地内に二つの調整池を設ける」とあるが、調整池の容量はそれぞれいくらなのか明示がない。また、それぞれの調整池は何ミリの総雨量まで耐えられると計画しているのか。防災計画に「想定外」は許されないことから明示すること。 | 計画地内に降った雨水は、いったん南北2箇所の防災調整池に集めた後に、適正な量を既設の農業用排水路へ排水する計画としている。現況の流れの方向は計画地の南側であることから、北側の鴻巣・余目方面、南東側の田子方面へ計画地から流れることはないものと考えている。 なお、調整池の容量は、準備書に示すとおり、「宮城県防災調整池設置指尊重要綱」に基づく必要容量(降水量300mm/日)により計画している。 | 準備書 1.4.9 排水計画 (P1-24~27) |
| 11 | JR 東北本線と同じ高さとなる計画地に降った雨水は、それより1メートル以上低い幼稚園や用水路、鴻巣集落方面に流れると予測される。これまでに被害をもたらしてきた豪雨なみの大雨となれば、浸水・冠水にとどまらず、激流となって幼稚園や保育園、鴻巣方面に流れ込むおそれがある。そうした危険性があることを予測しておかなければ、子どもらの命や住宅などの財産が守れない。それらの対策の明示を求める。 | 計画地内に降った雨水は、いったん南北2箇所の防災調整池に集めた後に、適正な量を既設の農業用排水路へ排水する計画としている。現況の流れの方向は計画地の南側であることから、北側の幼稚園や保育園、鴻巣方面へ計画地から流れることはないものと考えている。 | 準備書 1.4.9 排水計画 (P1-24~27) |
| 12 | JR 東北本線の線路は、一般道より高く、海拔10m程度の七北田川の堤防と同等の高さとなっている。計画地をそのJR 東北本線と同じ高さにするということは、国道4号仙台バイパスから北東の県道今市福田線の跨線橋に至る地域に「巨大な堤防」を築くことになる。 燕沢や鶴ヶ谷、南光台から流れ出た水は、この堤防でせき止められ、岩切小学校や今市方面、七北田川南側の岩切地区が水浸しになる危険性がある。これらへの対策を明示する必要がある。 | 計画地北西側の燕沢地区や鶴ヶ谷地区、南光台地区からの雨水については、計画地と異なる排水流域となっており、現在においても別系統で河川に排水していることから、本事業による影響は無いものと考えている。 | |
| 13 | 新駅移転に当たっては、一般用の駐車場をつくり、駅を見渡せる構内建屋の一部に有料の展望スペースをつくって、日中常時一般開放して構内の様子を見ることができるような仕組みがあると良いと思う。 (無線のやり取りがスピーカーから聞けたり、作業の解説があつたり) 検討いただければ、移転に際して地域の理解もより得やすくなる。 | 貨物鉄道事業について、地域の皆様から御理解をいただけるよう、交流の機会を現駅でも設けており、貴重な意見として参考にさせていただきます。 | |

以上